

日本臨床衛生検査技師会  
災害対策本部宛て

被災地支援班
報告者氏名:河野 裕樹
報告日時: 令和 6年 1月 29日

令和6年能登半島地震災害おける災害派遣チームの活動を下記のとおり報告します

活動日時	令和 6年 1月 28日
活動場所(避難所等)	輪島地区(大屋小学校、河井小学校)
活動主目的	DVT検診(Dダイマー、下肢静脈超音波検査)、弾性ストッキング着用指導、血糖測定
帯同医療チーム名	福井県臨床検査技師会
【具体的な活動内容】	
<b>1. 参加者</b> 参加者は以下の6名、 リーダー:河野 裕樹(市立敦賀病院)、金 寛宰(独立行政法人国立病院機構敦賀医療センター) 武田 泉(福井大学医学部附属病院)、野村 亜希(福井大学医学部附属病院)、下宮 祥太郎(福井県立病院) 木戸口 周平(福井大学医学部附属病院)	
<b>2. 活動時系列</b> 第1日目 1月27日(土) 16:00 レンタカーを借り受け、敦賀を出発(河野、金)。レンタカーは、三菱デリカ(7人乗り)。 16:30 北鯖江PAにて1名合流(下宮)。 17:00 福井大学附属病院にて最終メンバー(武田、野村、木戸口)と合流し、富山県高岡市前泊先に向けて出発。 18:50 富山県高岡市のアパホテルに到着。  第2日目 1月28日(日) 5:35 富山県高岡市アパホテルを出発。 7:40 穴水総合病院に到着。途中能越県境PAにて休憩、一般道で渋滞にあう(40分程度か)。 8:30 検査機器等の準備と車への積み込み開始。 8:40 出発式 医師の紹介と活動内容の確認を行う。 9:10 穴水総合病院を出発し、最初の活動先の輪島市大屋小学校へ向かう。 10:10 輪島市大屋小学校避難所に到着。装置等の搬出を行い、活動開始。 12:25 2チームの分かれて避難所2箇所同時に検査を行った。河井小(河野、野村、木戸口)、大屋小(武田、下宮、金) 12:30 河井小学校避難所に到着、活動開始。 14:50 河井小学校活動を終了。撤収作業を行い、大屋小学校へ向かう。 15:45 大屋小学校活動終了。撤収作業を行い、穴水総合病院へ向かう。 16:30 穴水総合病院に到着。使用物品の確認及び挨拶等。 17:15 穴水総合病院を出発。途中10分程度休憩 20:10 福井大学附属病院に到着し、一部解散(野村、武田、木戸口) 20:30 北鯖江PAにて一部解散(下宮) 21:10 敦賀に到着し、チーム解散。	
<b>3. 活動内容とその詳細</b> 1) 下肢静脈超音波検査 大屋小学校避難所(施行42件)、河井小学校避難所(施行22件) 2) D-ダイマー測定 大屋小学校避難所(施行3件)、河井小学校避難所(施行0件) 3) 血糖測定	

4) 弾性ストッキング着用指導。

5) DVTスクリーニング前問診、血圧測定、酸素飽和度測定

6) 活動まとめ

超音波検査前に問診と血圧測定、酸素飽和度を測定した。それを終えた方から検査施行。

下肢静脈エコーにて、血栓を認めたケースにD-ダイマー測定を追加した(3件)。また、下腿静脈径が9mmを超えた方には弾性ストッキングの着用を勧め、実際に履かせるなど指導を行った。糖尿病ので、リスクのある方は血糖測定も行った。また今回、午後から2チームに分かれて活動した。河井小学校避難所は、河野、野村、木戸口で編成、大屋小学校避難所は、武田、下宮、金で編成した。

#### 4. 日臨技報告活動経費

1) レンタカー利用料金38,170円(保険を含む)、2) ガソリン代10,076円、3) 高速道路代金8,870円、4) タクシー代920円  
合計58,036円

※タクシー代はレンタカー返却後、帰院する為に利用(敦賀駅ー市立敦賀病院)

#### 5. 活動における課題

1) 避難所に持ち込む荷物が非常に多い。

実際に使用しない物品の方が多かった。ストッキング数も少し絞っても良いかのではないか? 車載容量がギリギリ。  
各施設から持ち込んだ物品+エコー装置4台+穴水総合病院から持ち込んだ物品+日臨技物品ダンボール3箱

2) レンタカーについて

ギリギリのタイミングで日程調整するとレンタカーが借りにくい。車種が限定される為台数に限りがある。

3) 問診で渋滞する

問診でかなり時間をとられる為、特に開始時は混雑する。工夫が必要。

4) 最終の使用物品確認について

活動後、日臨技からの提供資材使用状況確認がある。使用前にそれを知っていたらもう少し楽であった。  
自分たちが持ち込んだ物品と混在し確認作業大変であった。

5) 血圧測定と酸素飽和度測定について

血圧と酸素飽和度は前回(1月21日)にはしていなかった。どこまで施行するか検討が必要。

6) 定数を増やした方がよいと思われる物品

エコーゼリー(現1本) 装置と同等数を希望する

7) 希望する物品

採血用翼状針、エコー拭き取り用ウェットティッシュ、ゼリー加温用のカイロ、パルスオキシメーター

#### 6. まとめ

前回からの引継ぎで全員が指導できると良いとの申し送りがあり、それに対応したことでストッキング指導はスムーズに行えた  
と考える。また、超音波装置が4台あったことにより、2チームに分かれて行ったことは、結果的に効率は上がったにではないか。  
最後に、21日と28日の2日間で避難所検査経験者の増員が得られたことは大きいと考える。

以上